日本チェコ友好協会設立20周年記念コンサート

Koncert k 20. výročí založení Asociace japonsko-českého přátelství

YEAR OF
CZECH
MUSIC
2024

２０２４年９月５日（木）

於：品川区総合区民会館きゅりあん　小ホール

主催：日本チェコ友好協会

後援　公益財団法人　品川文化振興財団

チェコ共和国大使館　Embassy of the Czech Republic in Tokyo

チェコセンター　チェコセンター東京

チェコ政府観光局　CzechTourism

日本チェコ友好協会設立20周年記念コンサート

ご挨拶

日本チェコ友好協会設立20周年記念コンサートにご来場いただき、誠にありがとうございます。この節目の年に、皆さまと共に両国の友情を祝う機会を持てることを、大変嬉しく思います。
20年前、私たちの協会は、文化や歴史、価値観を共有する日本とチェコの架け橋となるべく設立されました。それ以来、数多くの交流やイベントを通じて、多くの方々と友好の輪を広げていくことが出来ました。特に音楽は、言葉を超えて心を通わせる力を持つものであり、今日のコンサートが開催されることに深い意義を感じています。
本日のプログラムを通じて、チェコの文化と伝統の美しさ、また普遍性を改めて感じていただければ幸いです。また、この記念すべき日が、今後も両国間の交流と友好がさらに広がり、次の世代へと引き継がれていく契機となることを願っています。
最後に、このコンサートの実施にご尽力いただいた全ての方々に、心から感謝申し上げます。皆さまが素晴らしい時間を過ごされることをお祈りしております。

日本チェコ友好協会　会長　髙橋恒一

日本チェコ友好協会の20年の歩み

2004年４月に日本チェコ友好協会の設立総会を行いゼブラコフスキー大使による記念講演。会長に大鷹節子氏選出。演奏会、料理教室、講演会などの活動を開始。チェコ語講座を開設。第１回のクリスマスレセプションを大使館開催。会員通信「Ma Vlast Express」を創刊。
2005年　カレル大学ホルブ先生による欧州情勢についての年頭講演会を開始。
日本・EU市民交流年にメヘニッエU16と韮崎市FC穂坂のU16との相互訪問を実施。
2006年　町田市チェコ友好訪問団をサポートし、リトミシュル市で演奏会や茶会など行う。
2007年　会員有志による「チェコの歴史と文化を探る旅」をおこないチェコ各地を巡る。
2008年　ブルノ市の「なごみ狂言会」を招きセルリアン能楽堂で日チェコ両語による狂言「附子」ほかを公演。秋篠宮妃殿下ご来臨。
2009年、2010年　「ブルダバの源流を巡る旅」などチェコ各地を巡る旅を実施
2011年　東日本大震災。在プラハのチェコ日本協会ベラ・チャスラフスカ名誉会長から友好協会宛に激励のメッセージが届き、現地で日本チェコ協会による震災支援募金が始まる。
2012年　チェコ日本協会による被災地の児童のチェコ招待旅行の企画が提案され、友好協会はこれに賛同し大船渡・陸前高田の教育委員会などと共同して招待旅行を実現した。
2013年　髙橋恒一会長（元チェコ大使）を選出。「チェコの周辺都市をめぐる旅」など実施。
2014年　創立10周年を記念しピルゼン音楽院シャバカ先生を招き記念コンサートを開催。
「チェコ作曲家の足跡を訪ねる旅」を主催しスメタナの生家などを見学した。
2015年　ヤナーチェクのオペラ「イエヌーハ」公演に協力。プラハ放送交響楽団首席大嶋義実氏のフルート演奏会、元ピルゼンフィルの山崎千晶によるチェコオーストリア音楽演奏会、ライヤー奏者ブラウン・スタインを招いての演奏会など音楽イベントを多数実施した。
2016年　ヤン・リバ作曲「クリスマスミサ曲」をオーケストラ形式で本邦初演。チェコのTVでも取り上げられる。カトリック洗足教会の協力により実現。
2017年　「日本におけるチェコ文化年」を記念し新国立美術館で「スラブ叙事詩展」が開催される。これに呼応して阿部賢一先生による特別講演「ムハとスラブ主義」を主催した。
2018年　クリスマスレセプションを改め、在日チェコ人コミュニティーと合同でチェコの習慣通りに12月5日にチェコのサンタクロース、ミクラーシュを祝う行事とした。
2019年　ヤナーチェクについての講演会にヴァイオリン演奏会を組合わせた初の試み実施。
2020年　新型コロナのパンデミックの影響により年次総会は葉書での投票の形式で実施、同じく講演会や毎週の語学教室はZoomシステムを採用してオンラインにより継続した。
2021年　海外からの訪日が制限されるなかホルプ先生による年頭講演会、日本チェコ交流100周年記念講演会などの講演会はオンライン化、オリンピック・パラリンピックに参加のチェコ選手への支援などすべてオンラインにて実施とした。
2022年　政治、建築、文学、歴史など講演会はリアルとオンラインの組み合わせで実施。2023年
恒例のミクラーシュの日、リバのクリスマスミサ演会などを会場で再開した。

プログラム：

１．　ドヴォジャーク：スラブ舞曲第8番 Op46-8（弦楽五重奏版）

２．　ドヴォジャーク：歌曲＜ジプシーのメロディー＞op55より第1曲
「私の歌が再び愛とともに響き出す」

３．　ドヴォジャーク：オペラ＜ルサルカ＞より「月に寄せる歌」

４．　トゥルナフスキー：バラの歌

５．　スメタナ：愛の春

６．　ドヴォジャーク：弦楽五重奏曲第二番　ト長調　作品77第一楽章

休憩

７．　スメタナ：　弦楽四重奏曲第一番　ホ短調「我が生涯より」

出演：　第一ヴァイオリン: 山崎千晶　第二ヴァイオリン: 城達哉
ヴィオラ: 木下雄介　チェロ: 印田陽介　コントラバス: イジー・ロハン
ソプラノ: 日向野 菜生
司会：ヤクブ・ヴァーレク、アネタ・ロッド

１～５編曲：山崎千晶

曲目解説

●ドヴォジャーク：スラブ舞曲第8番 Op46-8

ドヴォジャークは1841年にプラハ近郊の町で生まれた。この曲はドヴォジャークの若いころの出世作。ブラームスはドヴォジャークの才能に注目し、自分が契約していたシムロック出版社に彼を紹介した。当時ブラームスのピアノ連弾曲「ハンガリー舞曲集」のヒットを喜んでいたシムロック社は、若いドヴォジャークにこうした舞曲集の作曲を依頼し、生まれたのがピアノ連弾曲「スラブ舞曲集」（全16曲）である。
ドヴォジャークはこの曲集にチェコ音楽の要素を色彩豊かにに盛り込み、大ヒットとなった。また、のちにオーケストラ版に作曲家自身で編曲され、以来現在に至るまで世界各地で頻繁に演奏されている。この第8番は、その中でも最も華やかな人気の曲である。

●ドヴォルザーク：ジプシーのメロディーop55より第1曲
「私の歌が再び愛とともに響き出す」

Cigánské melodie, :No.1　Má píseň zas mi láskou zní

ドヴォジャークが39歳の1880年に、チェコ人の詩人ヘイドゥクAdolf Heyduk(1835-1923)の詩に作曲した７曲からなる「ジプシーのメロディー」の第１曲。「わが母の教え給いし歌」として知られる第４曲が非常に有名であるが、今日は第1曲目をお届けする。

●ドヴォジャーク：オペラ＜ルサルカ＞より第一幕「月に寄せる歌」

　こちらのアリアは、ドヴォジャークのオペラアリアの中で一番有名なものである。
チェコの人魚姫のような話のオペラ「ルサルカ」の中のこの歌のシーンは「水の精ルサルカが月明かりの下で王子に恋をした。彼は美しく勇敢な人間で、彼女は彼の姿に魅了された」という心情を美しく表現している。

日本チェコ友好協会設立２０周年記念コンサート

歌詞：
月は高く空に深く その光は遠くまで輝き
広い世界をめぐり 人々の家を見つめる

月よしばらくそこにいて 教えて私の愛しい人はどこ？
彼に伝えて銀の月よ 私の思いは
彼を抱きしめている ほんの束の間でも
彼が私の夢を見てくれたら
遠くから彼を照らして そして彼に伝えて ここであなたを待っていると
もし彼が本当に私の夢を見ているのなら その思い出のまま彼が目覚めますように
月よ消えないで消えないで！ 月よ消えないで！

●トゥルナフスキー：バラの歌
ミクラーシュ・シュナイデル・トゥルナフスキー(1881 – 1958) Mikuláš Schneider-Trnavský はスロヴァキアの作曲家、指揮者、教育者。ハンガリーの代表的作曲家、コダーイとは同級生で、ブラチスラヴァ音楽演劇学校の設立に尽力した。当時そこまで多くなかったスロヴァキア語の詩から多くの歌曲を作曲し、スロバキア国内で人気を博した。日本ではこのようなスロヴァキアの歌曲が演奏されることは情報自体が入ってこないこともあり、今日はめったにない機会である。
歌詞
バラは凍って枯れ
葉も切り落とされて
風がそれを取っていった
ああなんとはかないものよ

バラは今眠るのだ
おお、あの夏よ帰れと
バラよ、その鮮やかさに
再び目覚めよ

●スメタナ： 愛の春
スメタナ（1824年生まれ、1884年没）はチェコを代表する作曲家で、スメタナの後にドヴォジャーク、ヤナーチェクが続く。スメタナの詳細に関しては、後述するが、耳が聞こえなくなった作曲家と言えば、ベートーヴェンであるが、あまり知られていないけれど、スメタナも耳がきこえなくなってしまった作曲家である。
スメタナ40代後半には完全に耳が聞こえなくなってしまったが、亡くなる57歳まで数々の傑作を生みだした。この歌曲は1853年29歳の時の作品である。この頃は音楽と共に人生が輝いていた時期で、そんな活き活きした心情が表現されている1曲である。
Jaro lásky　愛の春　歌詞
Lýry hlas,
竪琴の声が
jenž nitrem mým v záchvěvech tak mocně chvíse,
私の心に、力強く震える。
dej ať rozkoš pochopím, ráji!
この快楽を、私に教えて、楽園よ！
chvět že ve mně smíse.
それらは私の中に入り混ざって、震えだす。
Zní mi krásně jak by zvon,
鐘のように、私に美しく鳴り響く、
ozvuk rájů v něm se skrývá,
そこに隠された天国の響き。

そこに隠された天国の響き。
s tónem jak by splýval tón,
まるで音と音が溶け合うように、
anděl andělům když zpívá,
天使から天使へと、それが謳われるとき、
Zní to tak jak písní zpěv,
本当に歌のように聞こえる。
nádhernějších ret než znáje,
知られざる、この上なく美しい唇たちの唄。
vždyť to lásky zářný zjev jásá z hloubí nitra, z ráje.
そして輝く愛のかたちは歓喜する、心の奥底の、楽園で。
Kéž svět, kde vše trouchniví,
この世では全てが滅びゆくが、
strun těch nezbortí svou plísní,
それら弦は、どうか壊れないで！
láska má, jež v nich se chví,
私の愛は、その中で震えつつ知るのだ、
znova znáje vzbouzet písní.
再び、歌たちは目覚めることを。

訳：日向野菜生

●ドヴォジャーク：弦楽五重奏作品77第一楽章
この弦楽五重奏は四重奏の編成に、さらにオクターブ下の低音楽器、コントラバスが加わったもので、今日は1楽章のみ演奏する。
コントラバスの入った編成の曲は他には存在しない。なぜなら、弦楽四重奏が、四つの楽器により高・中・低音の絶妙のバランスがとれるのに比べ、そこに一本楽器を加えることによって、音のバランスがとりにくく、書法が難しくなるからだと言われている。しかし、ドヴォジャーク特有のスラブ的な作風と作曲技法を生かし、室内楽作品の名作となっている。

●スメタナ：弦楽四重奏曲第一番「我が生涯より」
スメタナは1824年にリトミシュルというチェコ共和国ボヘミア地方の小さな町に生まれた。「我が生涯より」という曲は、スメタナが52歳の頃作曲した曲で、自分の人生を振り返って、その人生を、4楽章構成で弦楽四重奏という形で表現したものである。

彼にとって、耳が聞こえなくなったという事実が非常に運命的に感じられていた。その運命の耳鳴りの音「ミ」が折々出てくる。

第一楽章：スメタナが自分の人生に起こった不運な出来事に対して、（心理的に）戦っているシーンから始まる。その後、自身の若いころの自分の芸術に対する尊敬、愛情など美しい思い出が憧れとともに出てくる。（ここの部分は第一部でお聞きいただいたようなスメタナの歌曲とつなげて考えてみていただければ,どういう心境だったかご理解いただけるだろう）そこから、彼が悲運ととらえたその後の人生を暗示する感じで終わる。

第2楽章：若いころの愉快な思い出を表現した曲。ポルカというチェコの踊りを中心に、いろんな村の楽しい場面を3部構成で表現している。最初が村のうきうきした様子のポルカ、その後転調しヴァイオリンが長い音を弾いているところは、いわゆるサロン音楽という、ちょっと高級感のあるおしゃれな場でのダンスシーンをイメージしている。その後は馬の駆け足とともにいろんな場所を旅行した思い出が出てくる。ヴィオラと、その後セカンドヴァイオリンで村の郵便局のほら笛の音が表されている場面がしばしば登場する。

第３楽章：昔の初恋の思い出から始まる。それは、彼の誠実な妻になった人。作曲家のロマンや愛。そしてまたその後の彼にとっての悲運の運命との闘いが表現される。そして希望や失望、喜びや悲しさ、過去のこと、現在のこと、これからのこと、言葉には表現できないさまざまな想いが4つの楽器の特性を生かしており綴られる。
ピアノ曲でもなく、オーケストラ曲でもなく、あえて弦楽四重奏という編成を自分の人生を振り返る際の手法に選んだスメタナのパーソナルなメッセージを受け取っていただきたい。

第4楽章：最初は最大限にチェコ風の音楽で始まる。スメタナの、チェコ音楽を開拓した第一人者の作曲家としての成功を、典型的なチェコ音楽のリズムで表現。チェコを代表する作曲家として第一線で活躍してきた人生。自分の芸術性にも自信があったし、やってきたことにも自信と喜びと成功があった。しかし、それは耳鳴りの運命の音（第一ヴァイオリン）とともにパタっとやむ。
彼にとってはこの耳鳴りの音があまりにも運命的に聞こえたため、どうしても入れたかった。そして、ラストはどのように終わるか、どう解釈するか、聞き手がご自由に判断していただきたい。
（上記の内容はチェコ語の「わが生涯より」に関する1946年の資料執筆者O.Šからまとめました。）
この曲が作曲された直後に、「我が祖国」という、有名な「モルダウ」が入っている6曲からなる大曲を作曲した。

出演者プロフィール

第１. ヴァイオリン：山崎千晶
桐朋女子高音楽科、桐朋学園大学音楽学部卒業。江藤俊哉、江藤アンジェラ、大下茂樹の各氏に師事。その後チェコ共和国プラハに留学、I.シュトラウス氏に師事。1999年より2年半スペイン王立セビージャ交響楽団に所属。その後チェコに戻り、西チェコ交響楽団マリアンスケ・ラズニェ、ピルゼン・フィルハーモニーのコンサートマスターを務める。またウィルティオーゾ・デ・プラガ、フローレス・デ・プラガのメンバーとして欧米、南米などで演奏。2015年18年間の欧州生活より帰国。2017年「Z.ゴラ・ヴィブラート教本」、2019年同「ヴァイオリンテクニックと心得」のチェコ語訳を音楽の友社より出版。2021年「シェフチークバイオリン教育法」を出版。作曲も手がけ、ヴァイオリン独奏曲「さくら変奏曲」やチェロ曲「音楽によるチリの旅」は欧米で演奏されている。2022年地方都市に生演奏を届ける活動を開始、NPO法人「音めぐり」を設立。2023年ピルゼン市立劇場のバレエ公演のためにチェロとハープによる「天使ペリ」を作曲し上演された。日本チェコ友好協会理事。五か国語に堪能。www.chiakiyamazaki.com

第2ヴァイオリン：城達哉
桐朋学園大学音楽学部を卒業。第20回かながわ音楽コンクール最優秀賞。第59回全日本学生音楽コンクール東京大会第２位。第16回KOBE国際音楽コンクール優秀賞、兵庫県芸術文化協会賞を受賞。大学卒業後渡欧し、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学修士課程を最優秀の成績で卒業。同大学ポストグラデュエイト課程を修了。これまでに宮嶋真理、石井志都子、ハラルド･ヘルツル、アネリー・ガールの各氏に師事。2016年から2021年までチェコ国立ブルノフィルハーモニー管弦楽団第一ヴァイオリン奏者。2021年より拠点を日本に移し、現在フリーランス奏者としてソロ、室内楽、オーケストラなど多方面で活動している。またYoutube動画配信や後進の指導にも積極的に取り組んでいる。

第2ヴァイオリン：城達哉
桐朋学園大学音楽学部を卒業。第20回かながわ音楽コンクール最優秀賞。第59回全日本学生音楽コンクール東京大会第２位。第16回KOBE国際音楽コンクール優秀賞、兵庫県芸術文化協会賞を受賞。大学卒業後渡欧し、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学修士課程を最優秀の成績で卒業。同大学ポストグラデュエイト課程を修了。これまでに宮嶋真理、石井志都子、ハラルド･ヘルツル、アネリー・ガールの各氏に師事。2016年から2021年までチェコ国立ブルノフィルハーモニー管弦楽団第一ヴァイオリン奏者。2021年より拠点を日本に移し、現在フリーランス奏者としてソロ、室内楽、オーケストラなど多方面で活動している。

2009年第１回アジア・パシフィック室内楽コンクール セミ・ファイナリスト。2020年第４１回神戸灘ライオンズクラブ音楽賞受賞。
写真家でもあり、主に音楽家のアーティスト写真を手掛けるほか、2023年には大阪府で初の個展「魂の国インド」を開催した。

印田陽介：チェロ
東京藝術大学附属音楽高等学校を経て同大学音楽学部を卒業後渡欧、チェコ・プラハ音楽院修了。チェコ・ドヴォルザークホールにてトマーシュ・ヤムニーク氏と二重協奏曲を共演するなど、オーケストラとの協奏曲の共演等ソリストとして活動するほか、各種室内楽、オーケストラなどクラシックのジャンルにとらわれない幅広い活動を展開している。
ヴァイオリニストの姉・印田千裕とのデュオでは2012年より毎年リサイタルを開催し、ヴァイオリンとチェロの二重奏という編成の可能性を追求している。
蓼科音楽コンクールin東京・室内楽部門第1位、ユースプラハ国際音楽コンクール・弦楽アンサンブル部門金賞ほか多数受賞。ミモザ弦楽四重奏団、シェリールトリオ、はにかる チェロ奏者、小田原室内管弦楽団主席チェロ奏者。

イジー・ロハン（コントラバス）
プラハ音楽院とプラハ音楽アカデミーでコントラバスを学び、チェコフィルハーモニー管弦楽団に最年少で入団。プラハ交響楽団、スーク室内管弦楽団などでも活躍し、また音楽プロデゥーサーとして100枚以上のCDを手掛ける。現在は静岡県富士市に在住し、お茶の栽培をしている。その傍らチェコの著名な音楽家を日本に招聘し、さまざまなチェコと日本の懸け橋となるコンサート活動を行っている。

日向野　菜生（ソプラノ）：
千葉県出身。聖徳学園短期大学音楽科、専攻科卒業、研究生過程終了。スロヴァキア国給費留学生としてブラチスラヴァ芸術大学で5年間研鑽を積む。同大学研究員勤務、博士号アートドクターを日本人初で獲得。ドヴォジャークの歌劇「ルサルカ」主役をスロヴァキア国民歌劇場管弦楽団と共演、コシツェ歌劇場、ビストリツァ歌劇場にてヴェルデイ作曲「椿姫」主役にてオペラデビュー。特にスロヴァキア国立歌劇場でのシェーンベルグのオペラ「期待」主役では、内外批評家らの絶賛を受けた。
コンサート活動優秀者としてスロヴァキア音楽財団より数十回の基金を受け、現代作品の多くの初演や録音、テレビ、ラジオ出演も行った。プラハ混声合唱団、スロヴァキア国民歌劇場などの日本ツアーや、ジリナ室内管弦楽団オランダツアーにソリストとして抜擢された。
ジヂャール・ナド・サーザボー国際声楽コンクール、パネンカ音楽コンクール声楽部門などの審査員を務める。ジリナ高等音楽院、クロムニェジージェ高等音楽院講師。ブラチスラヴァに18年、現在はチェコのモラヴィア地方に16年在住。www.naohigano.com

チェコ音楽年2024
スメタナの生誕 100 周年をきっかけに、1924 年に史上初のチェコ音楽年が開催されました。それ以来、「チェコ音楽年」は、チェコ音楽の重要な人物を記念する並外れた文化イベントとなりました。１0年ごとに「4」で終わる年に開催され、チェコの最高の作曲家やこれまでに書かれた最高のクラシック音楽を記念するものです。今年はスメタナ生誕200周年の記念年です。

協力　NPO法人　音めぐり

プシトロス（ホワイエでワイン・ビールなどを販売しています）

ピアノ・プレップ（チェコ製のペトロフ・ピアノの資料を差し上げています）

日本チェコ友好協会今後のコンサート予定

2024年12月15日午後2時半＆5時半2回公演

ヤクブ・ヤン・リバ　チェコのクリスマスミサ

場所：カトリック洗足教会

演奏：リバ祝祭管弦楽団＆合唱団　指揮：若宮裕

どうぞお楽しみに！